



ボートを寄贈したタイ人の方と
 記念撮影 2006年3月30日

**一年ぶりの
 タイ被災地**

タイ南部に行った。今年も四人で、ただし一人は入

分に当てはめて考えなさい、そうすれば他人を損なうことなく、幸福をつくれる。また、「菩薩の生きかたは、他者のことを先に考え自分のことはそれに付いてくる」と。常に、思いやりの心を持ちたい。

**弘法大師
 正御影供**

お大師さんのご命日に一言。師曰く、「一切の衆生を観ることおし自分の如し」と。つまり、他人を観るとき自分、他人を観るとき自分に当てはめて考えなさい、そうすれば他人を損なうことなく、幸福をつくれる。また、「菩薩の生きかたは、他者のことを先に考え自分のことはそれに付いてくる」と。常に、思いやりの心を持ちたい。



まず、現地を訪れて思ったことは、阪神震災後の復興と同様であること。人間の営みは縷々続きながらも継承と発展だろうか。多くの人が、新しい寄付住居に移り、表面上復興したかに見える。果たしてそうだろうか。

れ替わり、事務長さん。昨年、越智さんが中継ぎをして、十三人に手当てをしたし、金子さんが先日訪れて、何かに手当てし、情報を送ってくれた。一年ぶりの救援活動は期待と不安でいっぱいだった。何といても、既に仮設住宅はほとんど解散し、新居にみなさん移っているという。

タイ南部救援写真展 安養閣にて
 5月5日花祭り 6月15日弘法大師誕生日参り
 20日 42世俊行和尚三回忌

金剛講入会案内
 石手寺金剛講でいっしょに、お大師さん同行二人いたしませんか
 ○年紀年として石手寺金剛五鉢を布施します

この五鉢を身につけ、弘法大師の三摩耶戒を守れば、魔を退け、清らかな心を転回して、福德円満し家族揃い人々と幸福を円満します

お四国参り(日帰り)

行事案内
 毎月20日 **金剛講**
 (法話会食・二十日市)
 5月5日 **旧お花祭り**(旧暦のお釈迦様誕生日)
 10時~ 法要・甘茶接待
 6月15日 **弘法大師降誕会** 於御茶堂
弘法大師誕生日参り
 各所-29番国分寺-30番善楽寺-31番竹林寺-土佐二十四万石博
 市内各所7時発 参加者募集
毎年12月第1日曜 祈りの会(自死者供養)

石手寺写経会
 どなたでも参加できます
 日時
 毎月 第1・第3木曜
 午前10時~
 日時は行事等で変更する場合があります。
 場所
 石手寺寺務所
 硯と用紙はご用意下さい。
 お問い合わせ 977.0870石手寺

ふくろう会
会員募集
 美術教室石手寺創美林
 スポーツチャンバラ教室
 石手東陶苑やきもの教室
 パールズ体操教室
 エイサークラブ
 全て無料です。
 対象は小・中学生です。

アムネスティニュースレター
 2006年4月号より
足下の人権を考える
 今号は、日本社会の現状に警鐘を鳴らし続けている、ジャーナリストの斎藤貴男さんにお話をお伺いしました。(以下、本文より抜粋)
 戦後社会は平和と平等をたてまえにしていました。けれども本当の問題点、差別の問題にしろ、9条を守れといいながら沖縄はほとんど治外法権だった現状には無頓着で、彼らに犠牲を押しつけて一億総中流と云っていた。そして、企業社会で会社人間として物を言ってはならない。全体の中で従うという世の中だった60年近い歴史が、自立できない、ひたすら従順な、奴隷根性の塊のような国民を育てた気がします。

そして、会社人間がバブル期にピークを迎え、バブルが崩壊するわけです。証券スキャンダルなどを契機に、そういう会社人間のあり方を反省する機運が高まります。ただ、その方向が、日本的経営のいいところ、安定性を守りながら、個人が個として自立する方向に、というのだったら理想的だったんですが、結局アメリカ式の新自由主義を指向し始めます。それと同時にバブルあたりから、人件費がすごく高くなった。当然、生産工場も海外に移っていきました。それまでの年功序列や終身雇用も、何も皆のためというだけでなく、人件費が安い時代はそれで良かったわけです。しかし、人件費が高くなると、エリート以外はどんどん切捨て、そればかりか、パートや派遣、請負という形で安くこき使うわけです。そうなれば、社会は不安定化します。普通であれば犯罪になど縁のない人間が貧しい故に罪を犯す。一方で海外に資産を広げるグローバルゼーションは現地の社会と摩擦を起す。その際、軍事力のバックが欲しいとなって、軍産複合体が構想されていく。憲法を変えようという動きはまさにその事です。外に向けてはテロの要因をどんどん増やし、内なる社会では差別と貧困がひどくなるから犯罪が増えていきます。

今月の投句
 甘茶かけ園児の顔にも仏かな
 ミッチー パターソンさん
 花祭り白象の背に光さす
 グレイ・トウエストさん
 桜舞い行道過ぎて仁王門
 矢乃鷹ヒサさん

石手寺にかかわる俳句あるいは短歌を募集しています。本紙に掲載し記念品をお送りします。(投句多数の時は絞らせて頂きます)

金剛講員募集
 石手寺金剛講に入りませんか
 いっしょに
 お大師さんの同行二人の
 生き方をしましよ
 ともに喜び、苦しい時はともに歩く

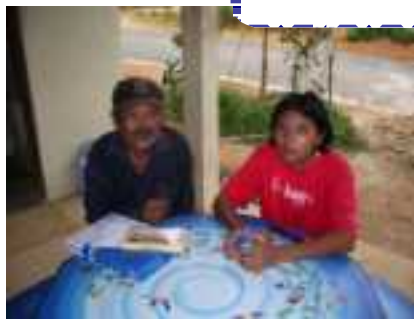
<石手幼稚園園児募集>
保育の内容に絶対の自信があります
 平成19年度の募集は10名程度です。定員になり次第閉め切らせて頂きます。 977-0165

年会費1000円毎月法話と食事会
 施本とお札が配られます
 お気軽にご参加下さい



子どもたちよりも、ずいぶん美しい笑顔に出会う。しかし、その裏にはいくつもの困難と苦難があることも確かだ。

六十才を超えて、ゴミ園で働き今はホテルで働く子持ちのお爺さん。彼のもう一人の息子は妻を津波で亡くし、精神障害で、孫は十四で漁業に出ている。「バイク壊れているのなら直してあげようか」子どもたちはバイ



みんなの笑顔を消さないで

た雰囲気の中にあつた。気丈なお母さんが子ども二人を連れてくる。私たちは文房具とスポーツ用品と奨学金を渡す。母は、ビルマらしい。ゴミ園で働き、一日二百バーツ。仕事のない月もある。かつかつの暮らしたということは見て分かる。親近感というか、未練というか、後ろ髪を引かれる場面である。隣の若い女



クの荷台に乗って、修理屋へと向かう。何とも楽しそうな何憚ることのない幸福な風景だ。しかし、六千バーツで修理も契約したところ、そのサイドカーバイクは少年の物ではないことが分かった。親方の物を借りているらしい。とはいえハンドルが折れた代物だ。その後、私たちは喘息持ちという母子家庭に向かった。夜は帳を下ろし、その家は山の中にひっそりと暗く、汚



性と若者が目に入る。同じような暮らしをしているのだろうか。

表情は明るく、屈託なく、笑顔が美しい。でも、貧乏という言葉の印象はぬぐえない。私たちに在って彼らにないものと、彼らに在って私たちにないもの。

富と笑顔。世界を一気に身近に感じる瞬間があつた。同じように生きる人々。しかしながら、その地には、日本にはない深い闇が下へとつづいているように思えた。日本だって深い闇は暴力や貧困の向こう側に見えなく拡がっている。



だが、支配、被支配の構造が目の前にあつた。どうしようもない上下の構造。そしてそのピラミッドを昇ろうと上へ上へと登る人々。あるいはそこそこで諦め、嘆き佇む人々。人々は鯉の滝登りのように少しでも上へと泳いでいるの



しかし、此処にはもっと隔日に無秩序な昔インドに見たような暗渠が横たわっているはと感じた。戦後六十年の年。日本が戦争を起こし人々が死んだ土地。その地に立つて何かをしようとしている。何だろうか。災害と、それを救援する人々が居た。これは真実だ。私はこの目で見た。金持ちと、働くタイ人と、そのまた下で働くビルマ人。人間にもともと上も下も金持ちも貧乏もないはずだ。あつてはやってられない。

四千人が死んだというナムケン、塩の町では大型イカ釣り船で漁が再開されていた。活気のある風景。そこではビルマの出稼ぎの若者達が今日の仕事の割り振りを獲得しようとしていた。しかし、その傍らには、新しいアパートがいくつもあり、あるはまあまあ暮らしを、あるは汚れた家屋と汚れた生活を強いられていた。その程ない所に今はタイ人のビルマ人がビルマ人の子どもを対象にした学校を開いていた。



「彼らは、学校に行くことができませぬ。ビルマ語とタイ語と英語を教えたい。このビルマ人はみんな貧乏です」そう語るアイビーさんの目は希望に満ちていた。私も手助けをした。

汚泥に咲く蓮の花

愛媛仏教徒平和の会が儀光寺であつた。平和を求める僧侶が宗派を超えて十人あまり集つた。今回は真言宗豊山派の前園先生の仏跡を尋ねる話だつた。紀元前二百年というアショーカ王の記念碑の話は、昔を今に現物が迫る歴史の重みがあつた。思っていることを確かめるといふことは、大変に重みのあることであつた。お経と現実として仏跡。これらが交わる接点こそ、釈尊が二千五百年前に往来した息吹である。さて、スライド上映の後、私たちは仏教徒の平和活動について話し合ったが、その席上、「蓮の花は汚泥に咲くが、汚泥に居ても汚れずに咲くのか、それとも汚泥をこそ栄養として咲くのか」という話になつた。



蓮は、汚泥に染まらない。蓮は、汚泥を栄養として咲く。参考までに、毎日私たちが読む理趣経には、「如蓮體本染 不為垢所染

農地を貸してね

毎週土曜日午後にご詠歌の会
があります
みんな和気あいあいと楽しくやっています
お気軽に来てみて下さい
電話 924 4768 関家

ホームレスの方々と農業をして自給自足をやってみようと思ひます。農地を貸してくださいませんか。石手寺加藤まで 089-977-0870

諸慾性亦然 不染利群生 大慾得清淨 大安樂富饒」となっている。この読みは、一般には「泥の中に咲いても、泥に染まらず、人々を救済して、且つ仏の欲を身につけるならば、大安樂となる」である。泥とは、垢であり、煩惱や苦難を指すだろう。蓮は、その身は汚れていても、花は汚れず、欲も然りであり、染まることなければ、生類を利益して、その衆欲であつて清浄ととなり、大安樂となる。さてさて、分かつたようで分らない。真宗の僧侶は言つ、「煩惱に塗れていることが、発心なのだ」と。確かに、煩惱にまみれ苦しむことが、一念発起の起爆剤である。苦しみの果てに、仏に命を投げ出す転機がなければ修行は始まらないし、嘘の発起は却つて中途半端な墮落をもたらす。そうすると、苦しみぬ

石手寺施本
「同行二人」
「伊予の国いして(新聞)」
年間購読料 千円

七五三 初詣

日曜午後一時半(電話予約にて随時) 祈願受付中

厄除・所願成就祈禱

厄除・所願成就祈禱 合格・安産・病氣平癒他
日曜二時(電話予約にて随時)
水子・先祖供養 土曜三時(電話予約にて随時)

人形・仏壇他供養

毎月第一日曜午後二時より(随時、お預かりはしております)